

TAKATSUKI

★ 農委だより

第115号

令和6年11月

編集・発行
高槻市農業委員会
〒569-8501
大阪府高槻市桃園町2番1号
TEL 072-674-7421

http://www.city.takatsuki.osaka.jp/

令和
7年度

農地等利用最適化推進施策等に関する意見を濱田市長に提出



森本会長から濱田市長に意見書を手交

農業者の声を濱田市長に手交
担い手不足や有害鳥獣被害への
対策などを要望

10月3日、農業委員会を代表して、森本茂会長・藤井博副会長・常任委員が市役所本館2階特別会議室で「高槻市農地等利用最適化推進施策等に関する意見」を濱田剛史市長に手交し、手交後には本市が抱える農業に関する課題等について、意見交換を行いました。本意見は、翌年度の市政や市予算に反映されるよう、毎年この時期に市長へ提出しているものとなります。作成にあたっては、市内

10地区で開催された実行組合長出席の農政懇談会での意見を始め、農業者・農業関係団体等から広く出された現場の声や、農業委員及び推進委員の意見・要望をもとに、9月13日に開催された農業委員会定例総会で議決されたものになります。

意見書は、4つのテーマ「都市農業振興施策全般」「地産地消や食育啓発、主産地育成事業の推進」「農地の保全に向けた農業施設の整備」「農空間を取り巻く良好な環境の形成」と「付帯する意見・要望」で構成されており、特に今年度は、農業者の営農意欲低下や、病害虫の発生など周辺農地への悪影響が懸念される遊休農地の発生防止や解消に向けた施策、今後より深刻になることが予想される担い手不足への対策を求めています。

また同様に、耕作意欲を大きく低下させる原因となる有害鳥獣、とりわけジャンボタニシの駆除に関して、さらなる対策・支援を講ずるよう求めています。あわせて農業者を取り巻

意見書の概要

1 都市農業振興施策全般について

▽担い手の確保、遊休農地の発生防止、解消

▽農業者との積極的な意見交換の実施など

2 地産地消や食育啓発、主産地育成事業の推進について

▽学校給食における地産地消の推進など

3 農地の保全に向けた農業施設の整備について

▽農道・水路等の整備及び農業基盤保全事業の利用促進、農業用水の確保・保全など

4 農空間を取り巻く良好な環境の形成について

▽有害鳥獣対策の充実・強化及びジャンボタニシの駆除、ため池や農地の安全確保など

【付帯する意見・要望】

▽各地区における意見・要望

※全文は、市からの回答と合わせて次号に掲載予定



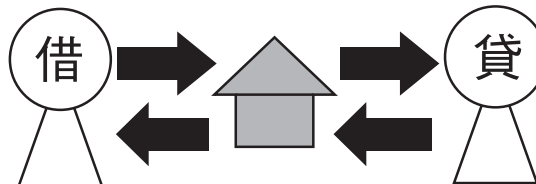
前列左から森本会長、濱田市長
後列左から高谷委員、上田委員、
八十副市長、藤井副会長、下村委員

く近年の切実な状況を受け、今年度の意見書では本市農業の持続的発展を見据え、農業者に寄り添った施策や支援も求めています。

なお、意見書全文と回答は次号に掲載予定です。

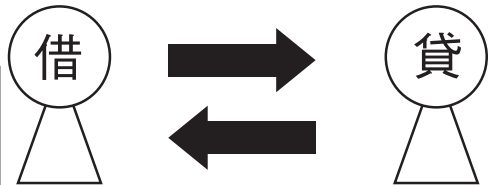
農地の貸借方法が変わります

② 公的機関を経由した 3者間による貸借



農地中間管理機構
(大阪府みどり公社)

① 2者間による貸借



申請は
令和6年12月27日(必着)まで

現貸借終了
から順次
統合

農地の貸借(利用権設定)に関する取扱いが変更されますので、お知らせします。

9月号の記事でご案内しましたが、現在、市街化調整区域内の利用権設定による農地貸借は、①貸し手と借り手の2者間で貸借するもの(上右図)と、②公的機関である農地中間管理機構の、「一般財団法人大阪府みどり公社」を経由した3者間で貸借するもの(上左図)の2種類がありますが、②に統合されます。

①の期間終了に伴う更新及び新規の申請については、令和6年12月27日(必着)まで市街にぎわい部農林緑政課で受け付けます。

それ以降に、①の現貸借期間が終了される方、及び新たに貸借をされる方は②の方法のみとなります。ただし、①②に関わらず、現在の貸借期間が終了するまで、その貸借は有効となりますので、特に手続きの必要はありません。

①については市街にぎわい部農林緑政課(☎072-674-7402)に、②については、市街にぎわい部農林緑政課又は市農業委員会事務局にお問い合わせください。

全国農業新聞

農業・農村・農政の動きをタイムリー
にお届け、経営とくらしに役立つ農業
総合専門紙を読んでもませんか。

購読料…月額700円
発行元…全国農業会議所
発行日…毎週金曜日
申込先…農業委員会事務局
問合せ…☎674-17421

農業委員会の活動

(令和6年7月～11月)

- 7月17日 第7回定例総会・第7回常任会議
- 7月22日～ 各地区遊休農地対策協議会開始
- 8月16日 第8回定例総会・第8回常任会議
- 9月13日 第9回定例総会・第9回常任会議
- 9月20日～ 各地区遊休農地利用状況調査開始
- 10月3日 「高槻市農地等利用最適化推進施策等
に関する意見」手交式
- 10月17日 第10回定例総会・第10回常任会議
- 10月24日 大阪府農業委員会大会
- 11月6日・7日 視察研修
- 11月14日 第11回定例総会・第11回常任会議

新規就農者(戸田さん)をご紹介します

清水地区(塚脇)で令和5年に就農し、農園「テラ・ソーレ」を営む戸田清治・智子さんご夫婦。
農園の名前の由来はイタリア語で「テラ」は「大地」「ソーレ」は「太陽」という意味で太陽と大地と「摂津峡からの清流」の恵みの下、じっくりと時間をかけて、大切に育てた野菜を届けたいという想いから名付けられました。



戸田清治さんと妻の智子さん

清水地区
(塚脇)



ズッキーニだけでも4品種栽培。ニーズに合わせた野菜を提案・販売

元々は田んぼだった圃場からスタートし、畑作を行うために排水対策などで大変苦労がありましたが、現在では立派な「畑地」になりました。種から育苗する作物は、今後作付けする分も合わせると40種類以上になり、品種数にすると100種類を超えるなど、多種多様な作物を作られ、収穫された野菜は、個人販売や農風館に出荷されています。

れ、最終的には緑肥による有機物の供給・圃場の雑草・残渣をたい肥化した上、圃場に還元する、持続可能な「循環型農業」を目指されています。

ゆつくり育つことは、野菜本来の美味しさに繋がる、それを信じて野菜作りをされています。農業や化学肥料は使わず、植物性有機肥料のみを使用し、より自然に近い環境で耕作さ



おいしい品種・土地にあった品種にこだわり、種から育苗

大阪府農業委員会大会で
橋長俊彦前農業委員会会長
と中村玲子委員が表彰



農業委員会大会の様子

10月24日に大阪国際交流センターで大阪府農業会議設立70周年記念「大阪府農業委員会大会」が開催され、高槻市からは橋長俊彦前農業委員会会長が感謝状を、中村玲子委員が農業委員永年在任表彰をそれぞれ授賞されました。



橋長俊彦前農業委員会会長

は、農業委員に就任した平成26年から昨年

の7月まで高槻市農業委員会会長、また大阪府農業会議では副会長を務められ、本市はもとより大阪府下における農業委員会の活動に多大な貢献をされました。中村委員は平成8年に農業委員に初めて就任され、現在に至るまで長年農業委員会の活動に尽力され、今回農業委員に在任20年の功績で表彰されました。

Photo News

11月6日・7日の2日間、愛知県を訪れ、農業振興等に関する3箇所の施設を視察しました。

愛知県へ視察研修を実施



げんきの里で研修を受ける委員

産地直売所で、知多半島の農畜産物の魅力を発信している施設になりま

す。また、敷地内には農業体験を行える圃場や、レストラン、温泉施設も備え、様々なイベントも盛んに行われるなど全国各地直送施設となつています。

同日訪れたミツカンミュージアムはミツカングループが運営する体験型情報発信施設として平成27年にリニューアルしました。施設

には江戸時代から使用されてきた酢造りのための道具や、醸造などの展示を行っていました。

2日目は知多郡美浜町にあるちたフルーツビレッジを視察しました。

ちたフルーツビレッジは様々な品種のグレープフルーツをはじめ、ブルーベリーやバナナなどの生産販売や、果樹のオーナー制度を行う観光農園です。

創意工夫された地元特産物の生産・販売、経営ノウハウなどの取組み事例を現地視察した今回の研修は、本委員会にとっても有意義なものとなりました。

この研修は農産物の生産のみならず、観光農園や加工販売等を行う6次産業

化や農商工連携などを行う農業者施設等を視察することにより、委員の資質向上を図ることを目的として行われる研修です。

初日は大府市にあるJAあぐりタウンげんきの郷と、半田市にあるミツカンミュージアムを視察しました。

同日訪れたミツカンミュージアムはミツカングループが運営する体験型情報発信施設として平成27年にリニューアルしました。施設

には江戸時代から使用されてきた酢造りのための道具や、醸造などの展示を行っていました。

2日目は知多郡美浜町にあるちたフルーツビレッジを視察しました。

ちたフルーツビレッジは様々な品種のグレープフルーツをはじめ、ブルーベリーやバナナなどの生産販売や、果樹のオーナー制度を行う観光農園です。

創意工夫された地元特産物の生産・販売、経営ノウハウなどの取組み事例を現地視察した今回の研修は、本委員会にとっても有意義なものとなりました。

9月から10月にかけて、市内各地の学習田で、小学生たちが稲刈りを体験しました。子どもたちが6月に植えた苗は順調に育ち、稲穂がたわわに実っていました。

地元農家の方々による指導の下、子どもたちは慣れない鎌の使い方や、稲を掴むことに試行錯誤し、時には虫に驚いたりしながらも、一生懸命に取り組んでいました。

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）

稲刈りの指導を行う辻崎委員（左）岩委員（中央）藤井副会長（右）